

○日経新聞

教員採用の応募の状況を教えてください。

○教育長

秋選考は小学校教諭の申込者が 55 名、U J I ターンの現職特別選考に 8 名、計 63 名の応募がありました。

○日経新聞

採用が決まるのは、いつですか。

○教育長

12 月 8 日金曜日の予定です。

○日経新聞

教員試験のスタートが遅いことを意識したり、県外からの推薦を取り入れる取組は、佐賀での就職を優先的に取り込む狙いですか。

○教育長

教師になりたい方は、大学 3 年生で 1 次試験に合格し、十分な準備をして、次に臨んでもらいたいという思いがあります。

佐賀県出身の高校生が全国に進学しています。佐賀に帰って先生になりたいと希望したときに推薦枠を設けておきたいと考えています。

○日経新聞

唐津青翔高校や太良高校は、定員割れしているのですか。

○教育長

どちらも定員割れしていました。地域と連携し魅力を知ってもらいたい。学べる内容を発信することも大事だと思っています。

○日経新聞

県立大学は、開かれた大学という構想が出ました。教育長としてのビジョンを教えてください。

○教育長

県立大学に対しては、大学の選択肢が増えると歓迎しています。小中高大連携により小さい頃から大学が身近にある環境は、とてもいいことだと思います。大学は、何を勉強するのか分かりにくい場所でもあります。大学生を見かけたり、教授から何か教えてもらう機会があれば、こんな勉強がしたいという気持ちが芽生えると思います。

○日経新聞

夜間中学と大学との連携をどのようにお考えですか。

○教育長

夜間中学へ入学する方は、事情や年齢がさまざま。皆さんの学び直し、次への希望に寄り添って可能性を広げていきたいと考えます。

○共同通信

公立学校の労働環境への、県の取組や工夫を教えてください。

○教育長

働き方改革には、県教委、市町教委、学校現場のそれぞれが、以前から計画を立て取り組んでいます。一般社会の時間外に当たる在校時間数が、かなり減少しています。例えば、夏休みに完全閉校日を決めたので、夏休みが取りやすくなったという事例もあります。

働き方改革は、すぐに効果が表れるものではありませんが、やれるところから取り組んでいるところです。

○STS

選考試験の推薦枠は、九州と中国地方にあった枠を全国に拡大するということですか。

○教育長

推薦枠を導入した際、九州や中国地方の実績がありました。実績に応じて推薦を受ける形を地域に絞る必要はないと考え、前年度実績があった大学にお声かけしたいと思っています。

○STS

大学3年生から1次試験が受けられる改革は、他県の事例を参考にされたのですか。

○教育長

他県でも取り組みを始めているところはあります。私どもも取り組むということです。

○時事通信

公立中学校の教員のわいせつ事案の逮捕が4件続いています。通報窓口の設置や教職員のメンタルケアなど、お考えがあれば教えてください。

○教育長

公立学校の児童・生徒を守る立場の教員が、未成年へのわいせつ事案を起こし、大変遺憾に思っています。学校長会を開き、周知徹底を図ります。この件に限らず、メンタルケアには力を入れています。セルフケアと組織的なケアという観点でサポートしていきます。